

波

熊谷九寿

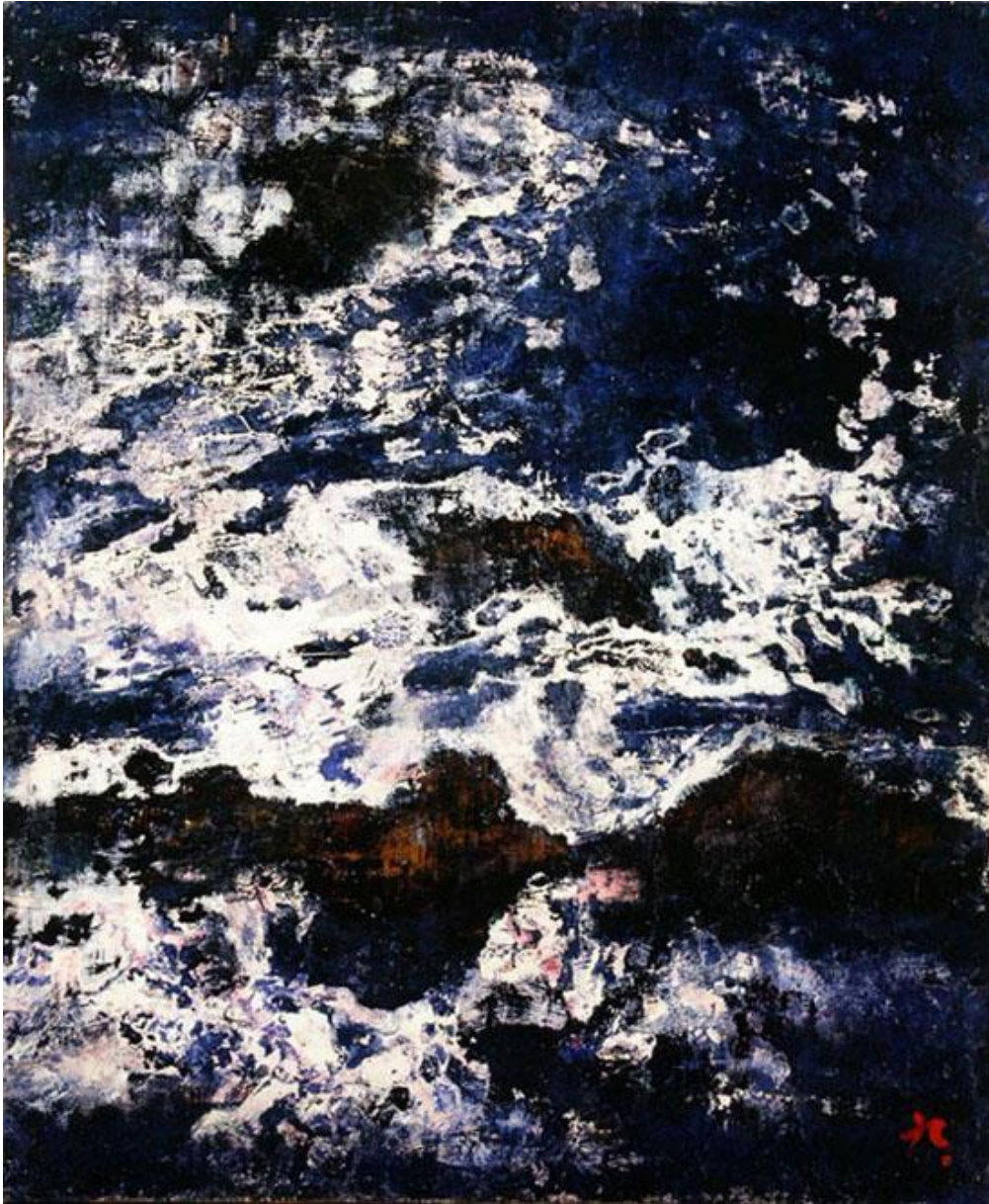
制作年：1970(昭和45)年

サイズ：45.5×37.9cm

材質：油彩、カンヴァス

所蔵：中津市木村記念美術館

1993(平成5)年中津市に寄贈される。



熊谷は水を多く描きました。激しい瀧、広大な海、そしてたゆたう波を描きました。この「波」は大作ではありませんが、熊谷の絵描きとしての本質をよく表していると思われます。

この絵について、次のような言葉があります。「堅く重い量塊としての岩と、やわらかくて透明な動きやすい水といった相反する性格の対比が、熊谷作品にはほとんど見られないことに気づくのである。これは疑いもなく一つの特色であり、発見と創意であるとしていいだろう。(中略)この絵では岩と波が全く一体となって融け合っていると、私には感じられる。対比のおもしろさをではなく、統一と融合の真相を画家はつかんでいるのだと思えるのである。生きている自然は、いつものような神秘を抱えて刻々と流動して止まぬと思うのだが、それ自体が流動性をもつ水墨とは全く異なる材質の油彩をもって、このような流動の様相に深く斬りこみ、その生命の神秘をわがものとした画家に賞賛を送りたいと思う。(三宅正太郎「熊谷九寿の「波」」三彩298号、昭和48(1973)年)

絶えず動き、変化し、とどまらないものに自然の神秘を感じ、絵にしていこうという作業を通して、独特の自然表現を得ていったのでしょうか。この「波」の絵において、熊谷の自然の条理への共感が見事にその筆致と一体となり、見るものの心に響くものになっていると言えるでしょう。